

第1回(6日)・第2回(7日)に行われた**学校見学会**が好評のうちに終了しました。内容は体験授業とオリエンテーリング、ダンス部・吹奏楽研究部による発表の3本立てでした。親子で30分弱の授業を一緒に受けたり、広い校内を一緒に回ったりと充実した時間を過ごしていたようです。おかげさまで好評でした。

次の見学会は、**第3回(20日)・第4回(21日)**に行われます。

まだ来ていない皆さん、あなたを本校でお待ちしています。ぜひ参加して下さい。



PICKUP TEACHER

東洋大学附属牛久高等学校の先生達をとりあげます

今回は本校地歴公民科教諭 本保泰良(ほんぼたいら)先生にインタビューしてみました。

先生は昨年度、「書いて深める 日本史 思考して表現する記述問題集」を執筆・販売しました。このことについてお話を聞こうと思います。



Q1<本を書こうとしたきっかけは何ですか>

私が普段の授業で使用している「問い」の教材が山川出版社の目に留まって、山川出版社の編集長から、日本史全時代の「問い」を作って、出版社に送ってもらえないだろうか、と言ってもらったことがきっかけです。

Q2<本を購入した生徒達にはどう活用してほしいですか>

高等学校で使用する教科書は中学校での教科書に比べて、分量も多く内容も難しくなっています。この問題集にある「問い」を考えることを通して、主体的で深い学びを行っていきける能力を磨いていって欲しいと思います。

Q3<中学3年生に歴史の先生として一言おねがいします>

歴史とは過去のことです。ではなぜ過去を学ぶのか。それは今をどう生きていくのかを考えるためです。過去・現在・未来は1つの線の上に成り立っています。勉強して勉強して、よりよい未来の自分に出会いましょう。

Q4<高校の学習について中学生にメッセージをお願いします。>

皆さんは、江戸時代になぜ参勤交代が始められたのかを知っていますか。もしかしてこの答えを、大名の経済力を削減するため、と暗記していませんか。この答えは間違いです。「深く考える」ことこそ、高校の勉強です。

ありがとうございました。